

都道府県番号	5
都道府県名	秋田県

()

・学校名及び規模

増田町立増田小学校									
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	3	2	2	3	2	2	16	22
児童数	72	81	74	65	89	78	3	462	

・実践研究の概要

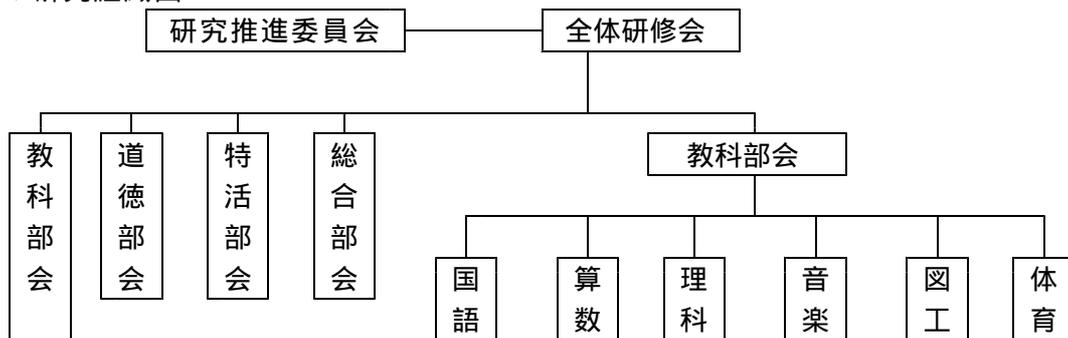
・主題（テーマ）
 わかる、できる喜びのある授業の創造

・テーマ設定の趣旨
 学校教育目標は「こころひろく ゆめおおきく」である。【ゆめおおきく】には、「たくましく生きる力をはぐくむ」「自ら学ぶ意欲と態度をはぐくむ」という願いが込められている。この学校教育目標のもと、学習過程において、児童一人一人の実態を把握し、一人一人が進んでかかわることができる教材を提示するとともに、体験的な学習や問題解決的な学習を積極的に取り入れ、少人数指導やTT指導、教科担任制などの指導体制を工夫することによって、どの子どもにも「わかった・できた」という実感を味わわせることができ、それが確かな学力の向上につながっていくのではないかと考え、本主題を設定した。

・実践研究の内容について

() 研究体制の工夫

1. 研究組織図



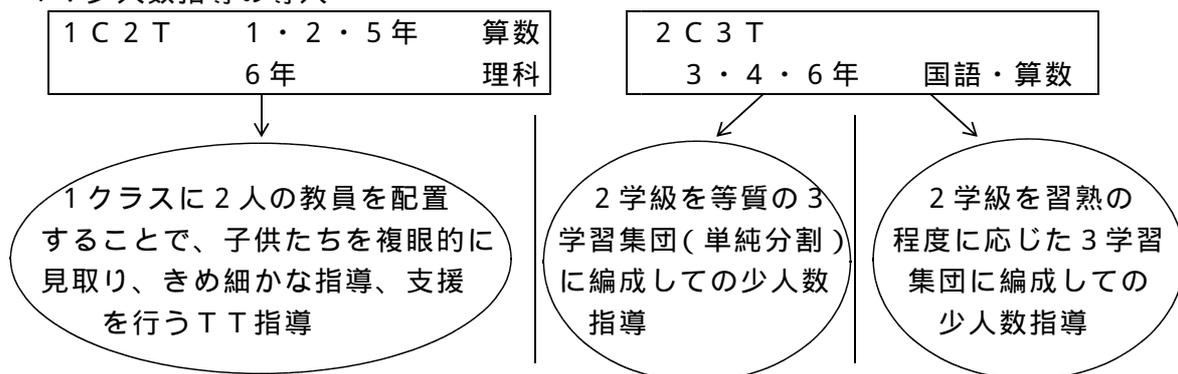
2. 研究推進委員会・・・研究主題・研究体制・研究の具体的事項など、研究の骨子にかかわる内容の検討を行う。構成メンバーは、校長・教頭・教務・研究主任・生徒指導主事・教科領域主任。

3. 教科部会・・・各教科の経営・運営にあたる。通常は「教科部会」で運営。評価規準表の作成・見直しもこの部会で行う。国社算理の中から1教科、音図家体の中から1教科選択し、その部会に所属する。生活科は、1・2年部の教員で構成。

4. 教科部会・・・今年度の重点教科の部会。重点教科の授業実践の方向を検討するときに活用。一人一教科に所属。

() 実践研究の内容

1. 少人数指導の導入



(1) 1 C 2 Tの取り組み

算数・・・つまずきが予想される児童を事前に把握して、T 2 が手厚く指導、支援する体制で実施。

理科・・・単元の評価規準に基づいて児童一人一人の習熟の程度を客観的に把握し、その把握を生かしたきめ細かな指導、支援を行う。個別に指導、支援が必要な場合は、主としてT 1 が全体把握に努め、T 2 が個別の指導、支援にあたる。

(2) 2 C 3 Tの取り組み

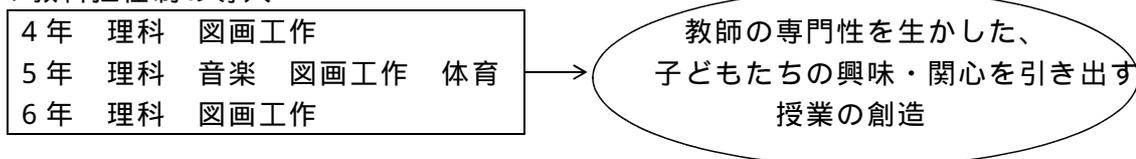
等質の学習集団(単純分割)での指導の取り組み

- ・国語と算数のすべての時間において実施。少人数指導では、子どもたちの人数が通常的人数よりも10人以上少なく、目が行き届きやすく、子どもたちの理解も進んでいる
- ・国語科では、一人一人の興味・関心を生かした学習課題を設定し、自分のテーマにそって調べ、自分なりの方法でまとめていくという単元を構成。このような単元では、等質の3学習集団にこだわらず学年全体で課題別のコースを設定して実践。

習熟の程度に応じた指導の取り組み(算数科において実施)

- ・習熟の程度に応じた指導におけるコース決定の際の配慮事項
(児童の実態把握、児童の希望調査、家庭への連絡・相談)
- ・子どもたちの実態を把握し、つまずきに対応していくことができるような具体的問題例を入れた達成ステップ表を作成して実践。
- ・4年生の例
「三角形の仲間を調べよう」・・・分度器の使い方に対応するための習熟の程度に応じた指導への取り組み。
「わり算の筆算」・・・1学期に行ったわり算の筆算の単元で見られたつまずきに対応するために実施。

2. 教科担任制の導入



5年生児童へのアンケートより(どの教科にも共通していえること)

- ・授業がわかりやすい。
- ・質問にもちゃんと答えてくれる
- ・難しいところをアドバイスしてくれる。
- ・先生が手本を見せてくれる。

3. 学習状況を把握するために

- (1) 今年度秋田県が実施した学習状況調査の結果を踏まえ、教科毎に本校の課題をつかみ、指導改善にあたる。
- (2) 今年度本校が実施したC R T標準学力検査結果から児童の学力を分析し、指導に役立てていく。(国語・社会・算数・理科)

() 成果と課題

1. 成果

- ・ 少人数指導や教科担任制は、子どもたちに大変歓迎されている指導体制である。少人数指導、教科担任制を導入することにより、「分かりやすい」「集中できる」「得意になった」という子どもの声が多数聞かれるようになった。
- ・ 少人数指導においては、単元によってコース別学習や習熟の程度に応じた指導ができるなど、さまざまな指導の工夫が可能となる。
- ・ C R T標準学力検査結果をみると、どの学年でも前年度までと比べ、少人数指導を行ってきた今年度の国語と算数のA(十分満足できる)が上昇し、到達度がよくなってきている。また、教科担任制(T T)を実施した6年理科は97%と大変高い率であった。

(例) 現6年生が4年・5年・6年のときのA(十分満足できる)

国語・・・4年生の時は53%、5年生では66%、6年生では81%

算数・・・4年生の時は38%、5年生では37%、6年生では73%

- ・ 評価規準表の中に努力を要する子どもへの手立てを入れたことや、算数科では達成ステップ表を作成したことにより、つまずきのある子どもへの対応がゆとりをもってできた。

2. 課題

- ・ 個に応じた指導を行う際、補充的な学習を意識して実践してきたが、今後は「よりわかる」「よりできる」子どもを育てるためにも発展的な学習について研究をしていきたい。
- ・ 習熟の程度に応じた学習を進める場合、進度にずれが生ずることもあるので、規準は同じでもコースに応じた評価計画が必要になってくる場合もある。今後検討していきたい。
- ・ 現段階での教科担任制は、その教科担当教師一人の責任において実施されている状況にあるので、今後は、もっと教科部・学年部を活用していく必要がある。

() 成果の普及方策

1. 平成14年度県南地区「確かな学力」向上推進協議会(実施期日：平成15年1月27日)
内容：フロンティアスクールがワークショップ形式で実践発表
2. 第17回秋田県教育研究発表会(実施期日：平成15年2月14日)
内容：学力向上フロンティアスクールとしての本校の1年目の実践発表
3. 自主公開研究会(実施期日：平成15年2月21日)
4. 自主公開研究会・・・平成15年度、平成16年度も開催予定
5. ホームページ作成について・・・来年度開設予定

() その他 (増田中学校との連携)

- ・ 今年度は、授業交流を中心に研修。6年理科では、中学校の理科担当教師と外部講師の応援をいただいて「天体観察」を実施。校内研究会の相互交流を小学校で5回、中学校で3回実施。今後は、小中連携を図っていける教科・単元について検討し、授業交流をしていきたい。